



羽咋市復興個別計画

〔御坊山町地区〕

令和7年6月
御坊山町・羽咋市

目 次

1	復興個別計画の概要	1
	（1）復興個別計画とは	1
	（2）復興個別計画の構成	1
2	地区の現状と課題	2
	（1）地区の現状	2
	（2）地区の被災状況及び課題	4
3	復興に向けた取組事項	5
	（1）地区の防災力向上	5
	（2）ハード面の機能強化等	6
	（3）将来を見据えたまちづくり	6
4	資料編	7
	（1）復興個別計画策定手順	7
	（2）ワークショップ実施概要	8

1 復興個別計画の概要

(1) 復興個別計画とは

令和6年1月1日午後4時10分に発生した令和6年能登半島地震では、本市においても震度5強（※推定震度6弱）を観測し、市内各地で液状化や家屋の倒壊など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

これを受け本市では、被災者の住まいとくらしの再建、被災地域の復旧・復興、地域経済の再建など、住民が希望と夢をもって安心して住み続けることができるよう、令和6年8月に“羽咋市復興計画”を策定し、各種取組を進めています。

しかしながら、大規模な液状化が発生し、インフラ（道路、上下水道等）に甚大な被害を受けた地区等においては、復旧までに長い期間を要し、「いつになったら元の生活に戻るのか」「このまま住み続けることができるのか」など、地区の将来の姿が見えず、依然として多くの住民の方が不安を抱えながら生活しています。

このため、地区の実情に応じた、将来にわたってお住まいの地区に住み続けるための将来展望や、この実現に向けた地区の防災力向上等の優先すべき取組、インフラの復旧スケジュール等を明確にした“復興個別計画”を策定し、住民・地区・行政で共有することで、地区の復興に向けた取組を進めるものです。

(2) 復興個別計画の構成

復興個別計画は、大きく「復興」と「復旧」に分け、取組事項等を整理します。

「復興」に関する内容は、令和6年能登半島地震を受けた地区の問題点・課題、これを踏まえた地区の将来像、この実現に向けた取組等について、地区住民が主体のワークショップで検討・協議した内容に基づき、整理します。なお、「復興」の取組については、住民・地区・行政が協働で取り組む必要があるため、下図に示す自助・共助・公助に分け整理します。

「復旧」に関する内容※は、行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧の取組内容・位置及び実施スケジュールを整理します。

※御坊山町地区の「復旧」の内容については、別途、液状化対策において整理します。

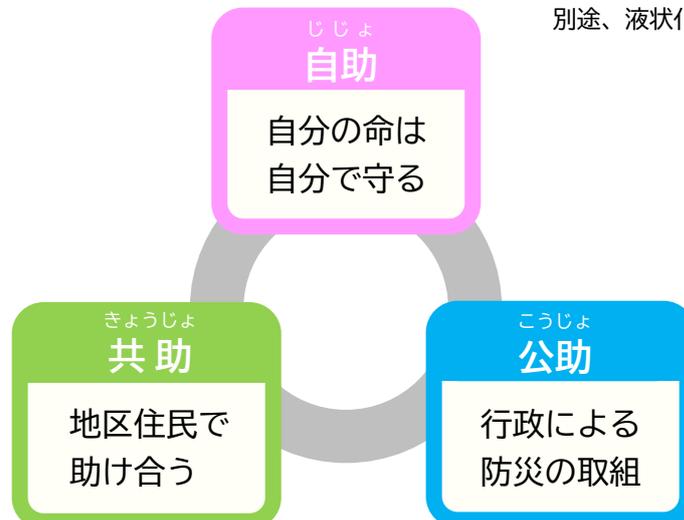


図 自助・共助・公助のイメージ図

2 地区の現状と課題

(1) 地区の現状

概況】

御坊山町地区は、中心市街地の南東部に位置し、地区には低層を中心とした住宅地が形成されています。

地区北部を市道羽咋 286 号線が東西方向に、地区西部を J R 七尾線が南北方向に走るとともに、地区東部を長者川が南北に流れています。

地区内には、御坊山会館を有しています。また、地区内の避難場所として「御坊山児童公園」、近隣の避難所として「羽咋市役所・体育館」があります。



御坊山会館



【人口及び世帯数】

御坊山町地区の総人口は 478 人、世帯数は 255 世帯となっています。

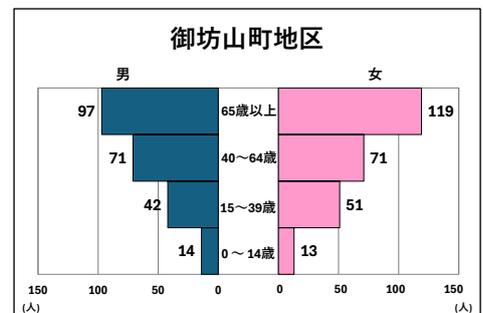
地区の老年人口割合は 45.2% となっており、市全域の老年人口割合（41.0%）を上回っています。また、特に年少人口割合（5.6%）が、市全域の割合（8.8%）よりも低くなっています。

今後、さらなる高齢化の進行により、地区のコミュニティ活動の維持等が困難になることが推測されます。

表 御坊山町地区の人口（年齢4区分別割合）

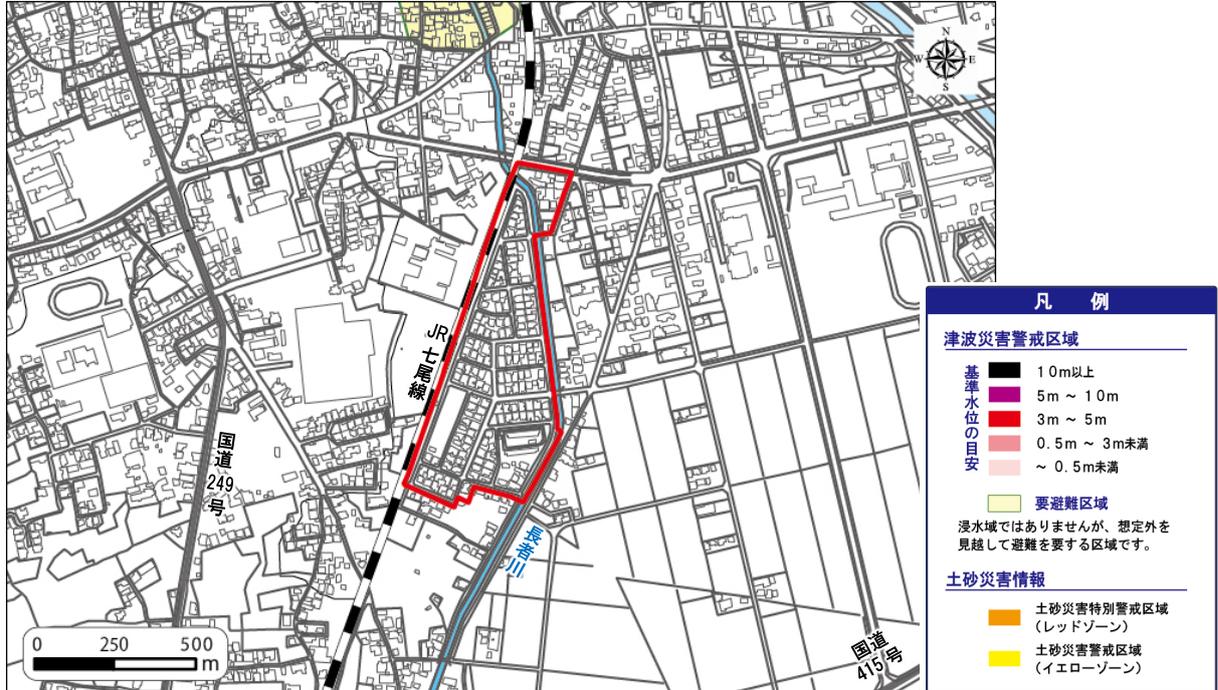
	年少人口	生産年齢人口		老年人口
	0～14 歳	15～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
御坊山町地区	5.6%	19.5%	29.7%	45.2%
市全域	8.8%	19.0%	31.2%	41.0%

※令和 6 年 4 月 1 日時点
資料：住民基本台帳



【各種ハザードの指定状況】

御坊山町地区は、津波災害警戒区域及び土砂災害警戒区域の指定はありませんが、地震による地区の最大震度は6強が想定されています。

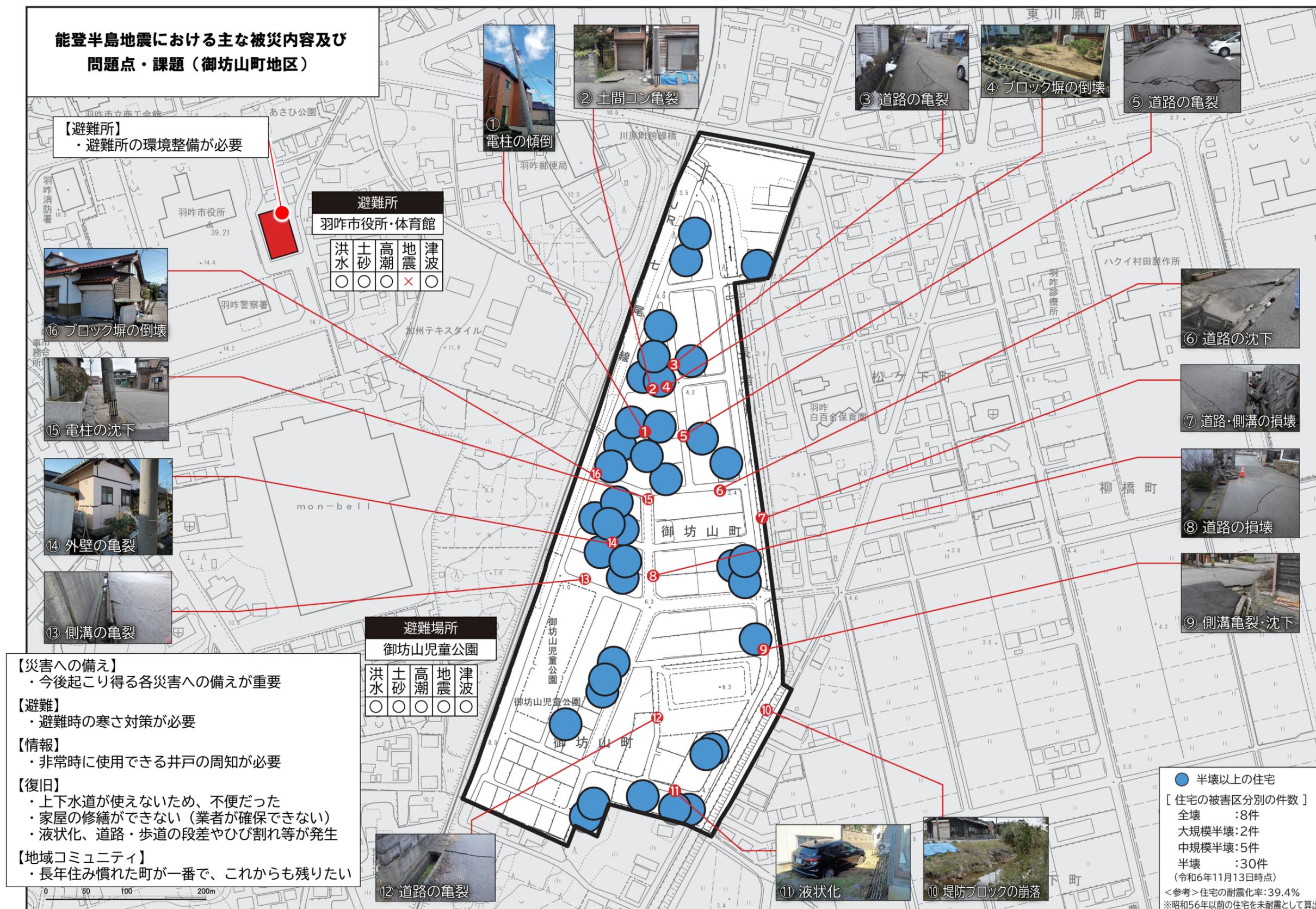


【耐震化率】

昭和56年以前の建物を未耐震として算出した場合（改修済みを除く）の御坊山町地区内における建物の耐震化率は、39.4%となっています。これは、全国平均の耐震化率（87.0%）を大きく下回っています。上記規模の地震が発生した場合、令和6年能登半島地震（震度5強）よりも甚大な被害となる可能性があります。

(2) 地区の被災状況及び課題

令和7年1月に実施した「第1回 復興個別計画の作成に向けたワークショップ」でのご意見を踏まえた地区の被災状況及び問題点・課題は以下のとおりです。



3 復興に向けた取組事項

＜地区の将来像＞

みんなが助け合い 笑顔あふれる安全・安心なまち

日ごろからの良好な近所付き合いや声の掛け合いを心がけるとともに、どんな時もみんなが助け合いながら、長年住み慣れた環境を取り戻し、笑顔あふれる安全で安心なまちを目指します。

前頁の被災状況及び問題点・課題を踏まえ、“取組が必要な事項”“取組内容”“具体的な活動等”を自助・共助・公助ごとに設定します。

“取組内容”については、第2回ワークショップの検討結果に基づき、“◎：最重要取組事項”、“○：重要取組事項”として整理します。

（1）地区の防災力向上

【自助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な避難行動	◎発災時の初動がスムーズに行えるように、避難に関する事前準備	◇避難時の持ち物（防寒具、最低3日分程度の水など）の事前準備
災害時の生活維持	◎災害時に使用できる水の確保	◇既存の井戸への手動ポンプの設置 ◇新たな手動の井戸の整備
災害時要支援者等の安否確認	○災害時要配慮者が孤立しないように、近隣住民間の連携強化	◇身体に不安がある方から近隣住民へ事前の自己申告

【共助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
災害時の生活維持	◎災害時に使用できる水の確保	◇町会などを通じた自家水・井戸水の所有者の把握・共用依頼 ◇利用・共用できる井戸等の場所を示したマップ作成・周知
災害時要支援者等の安否確認	○災害時要配慮者が孤立しないように、近隣住民間の連携強化	◇身体に不安がある方からの自己申告を踏まえた事前確認・見守り

【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
災害時の生活維持	○災害時に使用できる水を確保するための支援	◇井戸の手動ポンプ設置等への補助検討

（２）ハード面の機能強化等

【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
早急な住環境の整備	◎一日でも早い地区の復旧整備	◇応急措置による迅速な対応（道路の亀裂など） ◇県・市による液状化対策の促進
早急な住宅等の修理	◎一日でも早い居住環境の復旧整備	◇宅地の液状化対策の促進
〃	◎家屋等の早期復旧に向けた体制整備	◇各地からの業者の受入体制の検討 ◇家屋の修繕に対する補助金の拡充検討 ◇駐車場の整備支援
避難所の環境改善	○避難所等の環境整備・利用改善	◇御坊山会館の強靱化に向けた建替え ◇体育館の冷暖房の整備 ◇冷暖房を完備した施設の利用（民間施設の避難所としての利用検討を含む） ◇避難所に発電機の事前準備
〃	○御坊山会館の環境整備	◇ソーラーパネルの設置

（３）将来を見据えたまちづくり

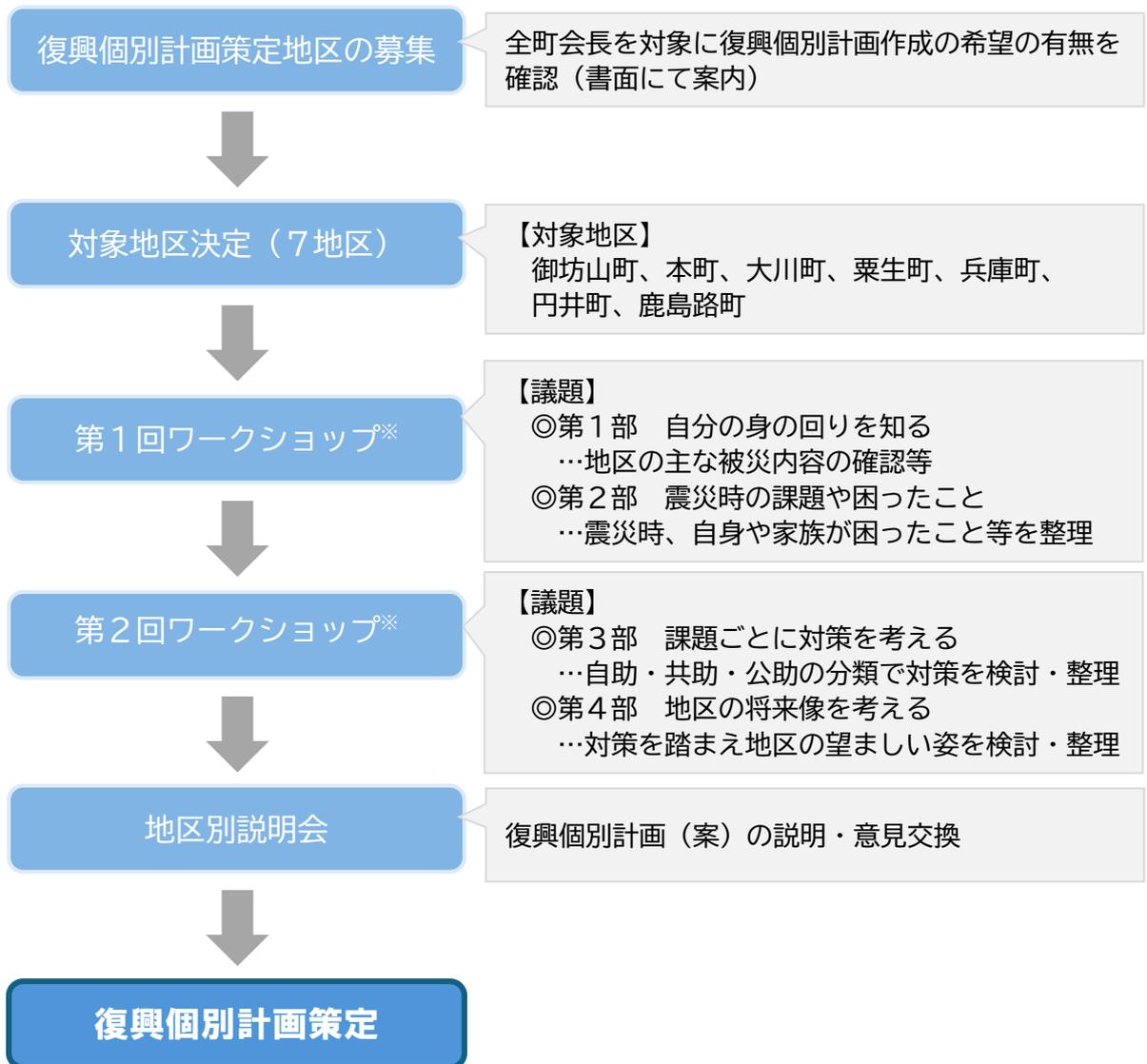
【自助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
住環境の維持	○長年住み慣れた地区で暮らし続けるための環境整備	◇空き地の活用検討

4 資料編

(1) 復興個別計画策定手順

復興個別計画の策定は、以下の手順で実施しました。



※ワークショップの概要・進め方

- 1グループあたり5名程度を基本に2～3グループで実施
- 各グループには市職員も配置
- テーマに応じて個人の意見等を付箋に書き出し、グループ内で意見交換をしながら共有・とりまとめ
- 各回、グループでのとりまとめ結果を代表者より発表し、意見を共有

(2) ワークショップ実施概要

■第1回

【開催日】令和7年1月25日(土) 14:00~15:30

【場所】御坊山会館

【参加者】町会長及び地区住民 計17人

【議題】第1部 (現状把握) 自分の身の回りを知る
第2部 (現状把握) 震災時の課題や困ったこと



ワークショップの様子

【主な意見(震災時の課題や困ったこと)】

項目	課題・困ったこと	項目	課題・困ったこと
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> 大きな地震が発生するとは思ってもよらなかった 町内の防災士会の数%しか機能しなかった 今後起こり得る各災害への備え等を町会に知らしめることが重要 	ハード整備 ・復旧	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道が使えない ライフラインの早期復旧が一番大事だと痛感した 家屋の修繕 (業者が確保できない) 道路・歩道の段差やひび割れ、マンホールの浮上 液状化 木が道路へはみ出している 長者川護岸工事が必要 定住促進住宅の整備や改修
避難	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要配慮者の避難活動、支援 避難時の寒さ 		
避難所	<ul style="list-style-type: none"> 雇用促進住宅やアパートを避難所として活用 		
情報	<ul style="list-style-type: none"> 非常時に使用できる井戸の周知 	地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 長年住み慣れたこの町が一番で、これからも残りたいと思う、復旧、復興を

■第2回

【開催日】令和7年2月19日（水） 14:00~15:45

【場所】御坊山会館

【参加者】町会長及び地区住民 計11人

【議題】第3部（対応協議）課題ごとに対策を考える
第4部（将来展望）地区の将来像を考える



ワークショップの様子

【地区の将来像案】

キーワード：顔を見たら声かけ／笑顔／近所の付き合いが大事／助け合い／
安心、安全／昔のまちをとり戻す

【主な対策】

自助	最重要対策	3日分以上の防災備蓄（飲料水等）を準備する／ 手押しポンプの井戸を整備する
	重要対策	自分の身体に不安のある方は事前に自己申告する／ 空地活用策を考える
共助	最重要対策	井戸水、自家水のある家を町会で確認し、災害時の協力を依頼する／ 地域の防災マップ作成
	重要対策	近隣の災害時要配慮者の把握
公助	最重要対策	宅地の液状化対策／家屋の修繕に対する補助制度／液状化対策
	重要対策	安全な避難所の整備（御坊山会館の建替え等）／ 冷暖房を完備した施設を避難所として利用する／ 体育館への冷暖房整備／避難所に発電機を配置／ 井戸の手動ポンプに対する補助制度